

予 算 要 求 資 料

令和 4 年度当初予算

支出科目 款：総務費

項：総務管理費

目：広報費

事業名 **新**岐阜・鹿児島姉妹県盟約 50 周年記念事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

知事直轄 広報課 政策広報係 電話番号：058-272-1111 (内 2073)

E-mail：c11103@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 7,885 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	7,885	0	0	0	0	0	0	0	7,885
決定額	5,000	0	0	0	0	0	0	0	5,000

2 要求内容

(1) 要求の趣旨

- ・薩摩義士による宝暦治水事業を機縁とした岐阜・鹿児島両県の友好・親善関係を教育・文化・経済など幅広い分野に拡大し、両県の更なる発展・地域間交流の促進を図るため、昭和 46 年 7 月 27 日に全国初の姉妹県盟約を締結した。
- ・盟約以降、両県においては職員・教員の相互派遣、青少年による交流など、様々な取組みが展開され、市町村や民間団体による独自の交流も脈々と受け継がれている。また近年でも、災害時における相互応援協定の締結 (H23)、鶴丸城御楼門の部材となるケヤキの提供 (H29)、関ヶ原武将イベントへの鹿児島県からの参加 (H29)、プロサッカーチームを通じた交流 (R3) といった新たな連携・交流が生まれている。
- ・令和 3 年に盟約 50 周年の節目を迎えたため、取組みの成果の振り返りや情報交換のための記念行事を行い、以て両県交流のより一層の発展を促す。

(2) 事業内容

記念式典等交流行事の開催

開催月・場所 令和4年4月 岐阜市内のホテル等（予定）

参加人数 約600人

岐阜県：知事、県議会議長、交流団体等 約500人

鹿児島県：知事、県議会議長、交流団体等 約100人

内容 ・記念式典 ・両県民の交流の集い

(3) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	17	
役務費	60	郵便料等
委託費	7,808	会場運営・設営業務、記念映像作成業務、式典アトラクション等
合計	7,885	

決定額の考え方

内容を精査し、所要額を計上します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

なし

(2) 国・他県の状況

鹿児島県においても、令和3年11月に両県交流の関係者を集めた式典等の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの拡大状況を踏まえ中止。

(3) 後年度の財政負担

なし

(4) 事業主体及びその妥当性

本事業は、両県の多岐にわたる交流・連携の取組み成果を総括するものであり、姉妹県盟約締結の主体である県が行事を企画・開催する必要がある。なお、鹿児島県での開催中止は、岐阜県での開催には影響しない。

事業評価調書

■	新規要求事業
□	継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

岐阜・鹿児島姉妹県盟約締結から50周年を迎えたことを機に、両県交流の関係者等を集め、これまでの交流の成果を振り返ることで、交流の一層の深化や新たな連携を促す。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標	達成率
						%
						%

○指標を設定することができない場合の理由

事業成果が数値で把握するにはなじまない性格のものであるため。

(これまでの取組内容と成果)

令和 2 年度	
令和 3 年度	指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%
令和 4 年度	指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>令和3年に姉妹県盟約の締結から50周年の節目を迎えており、これを機に、長年にわたる交流の成果を振り返り、更に交流を深めるための場を設定する意義は深い。</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	<p>両県の交流は、薩摩義士の顕彰事業を通じた交流や青少年交流といった長きに亘る取組みに加え、近年では、災害時における相互応援協定の締結（H23）、鶴丸城御楼門の部材としてのケヤキの提供（H29）、関ヶ原における武将イベントへの鹿児島県からの参加（H29）など、更に多くの分野への拡大をみせている。盟約締結から10年の節目ごとに実施してきた記念事業が、こうした交流の拡大に寄与しているものと考えられる。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	<p>本記念行事の開催と合わせて、令和3年及び令和4年に各所属・団体が実施する鹿児島県との連携・交流事業を、盟約締結50周年記念事業と位置付け、更なる交流機運の醸成を図っている。</p>

(今後の課題)

<p>交流の意義と成果について若い世代に伝えることで、将来の両県交流の担い手を育てていく必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>各分野で行われている鹿児島県との連携・交流の取組みについて、逐次状況を把握していく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	<p>【〇〇課】</p>
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果など</p>	